



〈雑録〉サンフランシスコノ惨劇

藤本, 幸太郎

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 1(4):573-578

(Issue Date)

1906-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/00051058>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051058>



サンフランシスコノ慘劇

サンフランシスコノ震災ハ近代稀ニ見ルノ大震ニシテ其損害又頗ル多大ナリ、而モ其損害ノ意外ニ多大ニシテ其狀亦慘鼻ニ禁エザルモノアルニ至ラシメタル原因ニ就テハ近刊濠太利保險銀行錄 (The Austrian Insurance and Banking Record, May, 1906.) ヘノ報ズル所能ク其間ノ消息ヲ傳フルニ足ル乃チ抄譯シテ讀者ノ參考ニ資セント欲ス。(藤本生)

四月十八日火曜日早朝サンフランシスコ市ハ近代稀ニ見ル一大慘劇ニ遭遇シタリ、五時ヲ少シク過グルヤ數回ノ震動相踵デ到リ忽ニシテ幾多ノ大建造物ヲ破壊シ市ノ重要部タル商業區ノ如キハ殆ド全滅ニ歸シタリ、加フルニ斯ル折ノ常トシテ火災諸所ニ起リテ焰々天ニ冲スルニ追ビテハ一面ノ大火トナリ類焼ノ區域殆ンド全市ヲ掩ハントセリ、瓦斯管水道管ノ破裂ハ一層火災ノ猛烈ヲ資ケキ蓋シ前者ハ直接ニ火勢ヲ副フルニ足リ後者ハ消防ノ術ヲ妨害シテ之ガ利用ヲ許サルヲ以テナリ。火藥ヲ以テ家屋ヲ破壊シ

多少其類焼ヲ止メンコトヲ期シタリト雖モ其效ナク今ハ殆ンド手下スニ由ナク同夕刻ニ及ビテハ火災ノ區域八哩ニ達シ市ノ重要部分ハ大方祝融氏ノ爲メニ灰燼ニ歸セリ。火ハ猶ホ熄マズ居留地マデ焼拂ヒ第三日目即チ二十一日夕刻マデ燒ケ通シタリ。黄金街ト稱セラル、所ニ至リテ火藥其他ノ破壞材ヲ用フルノ自由ヲ得タルト風位又幸ニ一轉シタルトニ由リ纔カニ防火ノ功ヲ奏スルコトヲ得タリ、此時ニ當リテハ其全燒區域約二十五平方哩ニ及ビ多數ノ民衆ハ最早住スベキ家宅ナキニ至リ、生命財産ノ損害又頗ル鉅大ナリ。

サンフランシスコハ常ニ火災危險ノ度非常ニ高キ都市トシテ人ノ認ムル所ナリ、即チ全市六萬ノ建物中五萬五千餘ハ木造ナリ、人口約四十萬火災區域約二萬五千「エーカー」ナレバ約十七萬「エーカー」ニ互ル間ニ五十萬ノ人口ヲ包容セルメルボルン市ニ比シ其人口稠密ノ度遙カニ高キモノアリ。抑々カリフォルニアノ首府ハ近年

長足ノ進歩ヲ成シタルモノニシテ其建物ノ如キモ亦最近ノ建築ニ係ル、一九〇三年中建築セラレタル左記一千五百〇五屋ノ内煉瓦造ハ僅カニ百十二屋ニ過ギザルノ事實ニ徴シ木造家屋ニ對スル看念ヲ了スルコトヲ得ベシ。

煉瓦造

一一二

平家建(木造)

三三五

二階建(木造)

六四〇

三階建(木造)

三九四

三階建以上(木造)

二四

合計

一、五〇五

上掲數字ノ内特ニ注目スベキハ木造家屋ノ多數ナルノ一點ノミナラズ又其家屋ノ割合高キコト是ナリ。思フニサンフランシスコハ世界中恐クハ最大ナル木造家屋ヲ有スルモノ、一ナルベシ、中ニ就テ「パレース、ホテル」(Palace Hotel)ノ如キハ鋼鐵ト木材トヲ以テ建造セラレタル七階建ニシテ内ニ一千二百室ヲ有スルノ一大建築ナリ、斯ノ如ク建物ノ薄弱ニシテ危險自ラ多ク且強風數々襲來スルノ虞アルニ關ラズ同市ハ過

去ニ於テハ火災保險ノ業務ハ寧ロ好況ヲ呈シタリ而シテ其因全ク水ノ供給十分ナリシト消防組織ノ完備シタルトニ存シ、後者ノ如キハ年々十五萬弗ノ費額ヲ以テ之ヲ維持シ又常置消防夫五百人蒸氣消防機關五十六臺ヲ備ヘテ其仕組完備セリト雖今回ノ如キ異常ノ慘劇ニ遭遇シテハ是等ノ設備ヲシテ殆ド施スニ術ナカラシメタリ、而シテ火災區域ノ非常ニ大ナリシ事ハ次ニ掲グル數字ニヨリテ自ラ明瞭ナリ。

シカゴ、	一八七一年	區域	破壞建物
ボストン、	一八七二年	エーカーズ	111000
ボルチモア、	一九〇四年	六〇	七五〇
サンフランシスコ、	一九〇六年	一六〇	二五〇〇
		＊	

＊明白ナラズ、恐ラクハ四萬以下ヲ降ルコトナカルベシ。

今又其損害總額ガ凡ソ幾何ニ上リタルカヲ察スルニ類焼ノ爲メ蒙リタル損害ノ地震ノ爲メ起リタル損害ニ比シ更ニ大ナルモノアルヤ勿論ナリト雖モ是等ニ關スル記錄モ亦同時ニ滅失シタルヲ以テ今日尙土着ノ人々スラ其精確ナル損害

額ヲ知ルコト難シ、然レドモ大凡六千萬磅（我六億圓）ニ上ルベシト推セラル。此内三千五百萬磅ハ保險ニ付セラレアリト雖モ其賠償額ハ果シテ幾何ニ上ルベキカニ就テハ今日尙未定ノ問題ナリ。

現今火災保險ノ業務ヲ營メル會社カリフォルニヤ州ニ百〇七アリ、而シテ是等會社ノサンフランシスコニ於ケル總責任額約六千萬磅ニシテ同州ニ於ケル全部保險額ノ半ヲ超ユ、今之ヲ昨年度シドニーニ於ケル諸會社ノ保險總額七千八百萬磅ニ較ブレバ甚ダシキ徑庭ナシ、上掲ノ事實竝ニ同市ノ四分ノ一而モ其最モ價值少キ市ノ一部ノミ僅カニ災禍ヲ免レタルノ事實ニ照合スルトキハ上ニ述ベタル保險損失額ガ決シテ單純ナル推測ニアラザルヲ知ルベシ。但シ是等ノ會社ガ其損害額ニ對シテ凡ソ全額ノ負擔ニ任ズルモノト假定シテ而カ云ヘルモノナルヤ勿論ナリトス。然レドモ傳フル所ニ依レバ會社ハ法律上當然責ニ任ズル損害ニ對シテノミ賠償スベキコ

トヲ宣言シ且保險證券中ニ記載セル會社負擔ノ責ニ任ゼザル約款ニ依リテ免ルベキ損害額又少カラザルベシ、然レドモ尙這回ノ損害高タルヤ從前未ダ其例ヲ見ザル所ニシテ次表ニ據リテ其一般ヲ了解セラルベシ。

場所及ビ年	損失總高	保險損失額	英國會社ノ損失額
シカゴ、一八七一年	三、〇〇〇、〇〇〇	一九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
ボストン、一八七二年	一五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
ボルチモア、一八七四年	一五、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
サンフランシスコ、一八六六年	六〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇

茲ニハ單ニ最近公ニセラレタル英國會社側ノ數字ヲ掲ゲタリ是ニ由テ察スルニ二千萬磅ノ保險損失高ハ略ボ正當ナルガ如シ、蓋シ總保險金額ノ約三分ノ一二達スルヲ以テナリ、而シテ今單ニ英國會社ノ側ヨリノミ之ヲ觀ルニ此損害額ハ從來未ダ經驗ナキ一大打撃ナリ、然レドモ此巨額モ約十八會社ノ共同負擔ニ係ルヲ以テ之ヲシカゴ大火ノ當時ノ如ク僅カニ五六ノ會社ノ責任ヲ以テ之ニ臨ミ其大部分ハ又其内ノ二會社ノ

負擔ニ歸シタルモノト比較スルトキハ損害分擔ノ割合ニ輕微ナルモノタルヤ論ヲ俟タズト謂フベシ。

這回ノ如キ大慘禍ニ際シ保險會社ガ何レモ嚴格ナル法律ヲ楯ニ取リテ其賠償責任ニ當ランドスルコト素ヨリ人情ノ免レザル所ナリ、而シテサンフランシスコニ於テ發行セラレタル火災保險證券ニハ濠太利保險證券ニ於テ常ニ見ルガ如ク其特約條款中地震ニ因テ生ジタル火災ノ損害ニ就テハ其責任ナキ旨ノ約款 (Liability for damage arising from fire caused by earthquake) ヲ插入セザルヲ以テ此條款ニ關スル結果如何ハ敢テ精細ノ議論ヲ要セザルベシ、只會社ガ依テ以テ免ルベキ點ハ建物又ハ其一部ガ火災ノ結果ニ俟タズシテ墜落シタルトキハ乃チ其責任ニ任ゼザル旨ノ約款是ナリ會社ハ之ニヨリテ火災ノ爲メ破壊セラルベキ頑丈ノ建物ニ就テハ其責任ヲ免ルベシ然ルニ木造ノ建物ニ至リテハ元來震動ニ堪フルノ度高シト雖モ火氣ニ弱キヲ免レザル

ヲ以テ同市ノ如キ木造家屋多數ヲ占ムル所ニア
リテハ此點ヨリ巨額ノ賠償ヲ爲サルベカラザ
ルヤ疑フベカラズ、保險會社ハ又類焼ノ波及ヲ
防遏セントシテ破壊セラレタル建物ニ對シテハ
賠償ヲ爲サルベキ旨ヲ宣言シタリ、但シ此點
ニ關シテハ已ニ火災保險證券中特別約款ヲ以テ
規定セル所ナリ。

之ヲ過去ノ經驗ニ據リテ考フルニ米國保險會
社ノ中ニハ今回ノ損害ニ對シテ賠償ノ能力ナキ
モノ蓋シ必無ヲ期スルコト能ハザランシカゴ大
火ノ際ニハ賠償スベキ金額ノ約半額ハ實際之ガ
支拂ヲ了シ得タリト雖モ六十餘ノ地方ノ會社ハ
其履行ヲ爲スコト能ハザリキ、ボストンニ於テ
モ其翌年米國會社ノ或者ハ先年同様支拂ニ窮シ
タリ而テ當時ノ責任額一千一百萬磅ノ内僅ニ七
百五十萬磅ニ過ギザリシナリ、之ニ反シ英國諸
會社ハ其賠償額全部ニ對シ速カニ支拂ヲ了シタ
ルヲ以テ合衆國ニ於ケル英國諸會社ハ一般ニ好
評ヲ博スルヲ得タリ、今回ノ損害ニ對シテハ英

國諸會社ノ損失高先年（一九〇四年）ボルチモ
ア大火ノ當時ニ比シ四倍以上ニ上ル巨額ノ資金
ヲ要スルモノ、如シト雖モ能ク其支拂能力ヲ保
持シ一般ノ信認ヲ博スルニ堪フベキハ毫モ疑ヲ
容レザルモノ、如シ、蓋シ英國諸會社ハ準備金
ヲ多カラシムルノ策ヲ採リ平素ヨリ多額ノ剩餘
金ヲ以テ之ニ充ツルニ努力セルヲ以テ斯ル際ニ
蒞ミテモ毫モ狼狽スル所ナシ、而モ幸ニシテ過
去數年間事業頗ル有利ナリシガ故ニ從テ一層強
固ナル準備金ヲ作ルコトヲ得タリ、サレバ今回
ノ損害ニ對スル賠償額モ迅速ニ其支拂ヲ了スル
コトヲ得ベキナリ。只此際望ムベキ事ハ諸會社
ハ深ク將來ニ顧ミテ嚴格ニ法律ノ保護スル所ニ
從テノミ賠償ノ責ニ任スベキコト是ナリ、蓋シ
被保險者ノ云フガ儘ニ濫リニ賠償ヲ爲スニ於テ
ハ乃チ惡先例ヲ遺スコト、ナリ將來同一災禍ノ
發生シタル場合ニ有力ナル會社ヲシテ危險ノ地
位ニ立タザルノ已ムヲ得ザルニ至ラシムベキヲ
以テナリ、思フニ英國會社タルモノ須ラク單ニ

株主ノ爲メニノミ慮ラズ、一般被保險者ノ利害得失ヲ顧念シテ事ニ當ルベシ。蓋シ此巨額ナル準備金モ實ハ是等被保險者全體ノ安全利益ノ爲メニ備フルモノニシテ其契約以外ノ要償ノ爲メニ濫リニ此等ノ資金ヲ消耗セザルベキハ保險會社當然ノ責務ナレハナリ。

第八回萬國商業教育會議

萬國商業教育會議ハ、曩ニ千九百年ヲ以テ巴里ニ開會セシ以後開會ノ事ヲ聞カザリシガ、本年九月十七日ヨリ二十一日ニ至ル數日間ヲ以テ伊太利ミラシ府ルイジ、ボコニー商業大學内ニ於テ開會ノ事ニ決シ、其議題トシテ已ニ提出セラレタル分ハ左ノ如シ。

一、高等商業教育ノ標準、方法並ニ目的

報告者 ルイジ、ボコニー大學總長レナボルド、サバチ

ニー氏

二、商業學校ノ國際的種類別 (International classification)

報告者 アンヴェルヌ商業學校長ゲユボア氏
三、青年商業家養成ニ對スル商業學校並ニ實地見聞ノ價值

報告者 瑞西商業學校視學官ゲユノー氏

四、小賣商人手工業者等ニ必要ナル教育(和蘭政府提出)

報告者 ハーレム辯護士チーレンク、ウイリシク氏

五、高等商業學校卒業生並ニ其外國語智識ノ養成

報告者 ベニス高等商業學校同窓會長ブリモ、ランゾニ

ー氏

六、(a)學生ノ國際的交換

報告者 巴里商業學校長ホール、アングレー氏

(b)休暇中ノ講習

七、輸出製造業ト實業中等教育トノ關係

報告者 プレシア商業會議所書記長フイリツボ、ガリー氏

八、商業學校ニ於ケル生命保險科ノ教授

報告者 ルイジボコニー大學教授ギド、トヤ氏

九、商業地理ノ經濟的基礎

報告者 ルイジ、ボコニー大學教授サルユスチナ、マル

チ氏